

「東北における産学官連携ファンド (東北インキュベーションファンド)の取組み」

－ 東北経済の活性化を目指して －

2006年2月6日

東北イノベーションキャピタル株式会社
代表取締役社長 熊谷 巧

URL <http://www.tohoku-innocapital.co.jp/>

I ファンド創設の必要性和意義

1. 東北におけるベンチャーをとりまく状況
2. ベンチャー企業の支援・育成策
3. 必要となった地域密着型(産学官連携)ファンド

1. 東北におけるベンチャーをとりまく状況

東北経済の現状

支店経済の縮小

誘致工場の海外移転

公共事業の減少

技術・知的シーズの存在

産学官連携の気運の高まりと必要性

リスクキャピタル供給者の不在

2. ベンチャー企業の支援・育成策

スタートアップ、アーリーステージの資金調達

大学等の技術シーズを活用して事業化を行おうとするベンチャー企業について、スタートアップ(創業期)、アーリー段階(成長初期段階)での資金調達が非常に困難。

資金以外の経営支援

資金以外でも、ベンチャーは人材、ノウハウも含めた経営資源が不足。

出口を意識した支援

可能性の大きいベンチャーに対しては、成長を加速し、IPOを意識した集中的支援を行う仕組みが必要。

3. 必要となった地域密着型(産学官連携)ファンド

リスクキャピタル供給 — ベンチャーキャピタルによる投資

担保力のないベンチャーに対して、技術の新規性や、事業の将来性を評価し、効果的に資金供給を行う仕組みが必要。

ハンズオンによる密度の濃い支援

成長可能性のあるベンチャーを着実に育成・成長させると同時に、確実にリターンを得るため、単なる資金供給だけでなく、取締役等の派遣に代表される密度の濃い徹底した経営支援(ハンズオン支援)が必要。IPOを意識した支援も。

地域経済へのインパクト

地域の資金が、地域のベンチャー企業へ投入され、その収益が地域へ還元されていく循環型システム構築。

⇒ 雇用の創出・需要の創出

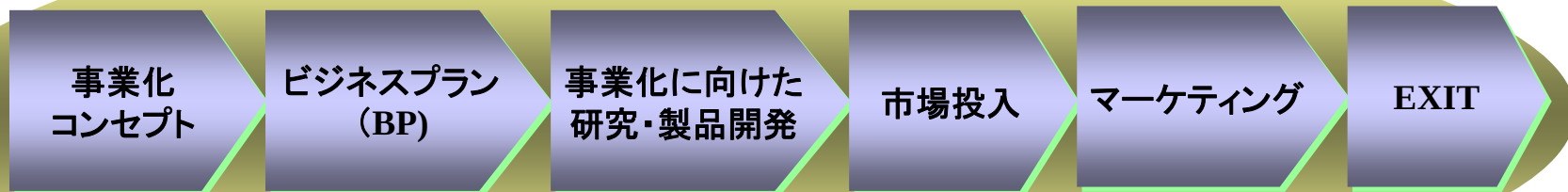
Ⅱ ファンド運営の基本方針

1. 全体フロー
2. *Finding*
3. 各種評価
4. 投資判断
5. ハンズオン支援

1. 投資プロセス～全体フロー

■ 投資先の発展段階とTICCの投資フロー

投資先ベンチャーの発展プロセス



コミット開始

役員派遣

ハンズオン支援

有望企業

地域資源のコーディネートによる支援メニューの集中的投入

Finding

調査・分析
・評価

投資意思
決定

BPブラッシュアップ
経営チーム組成
知財戦略

マーケティング
アライアンス

資本政策

戦略的IR

IPO支援

技術シーズ

投資プロセスⅢへ

投資プロセスⅣへ

投資プロセスⅡへ

投資プロセスⅠへ

初回投資

追加投資(マイルストーン投資)

秘密保持契約締結

投資契約書締結

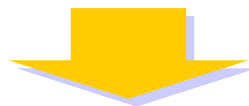
事業の発展ステージに応じた
段階的投資

投資先発掘から製品の市場投入, IPO等に至るまで, シームレスに支援

2. 投資プロセス I ～.Finding

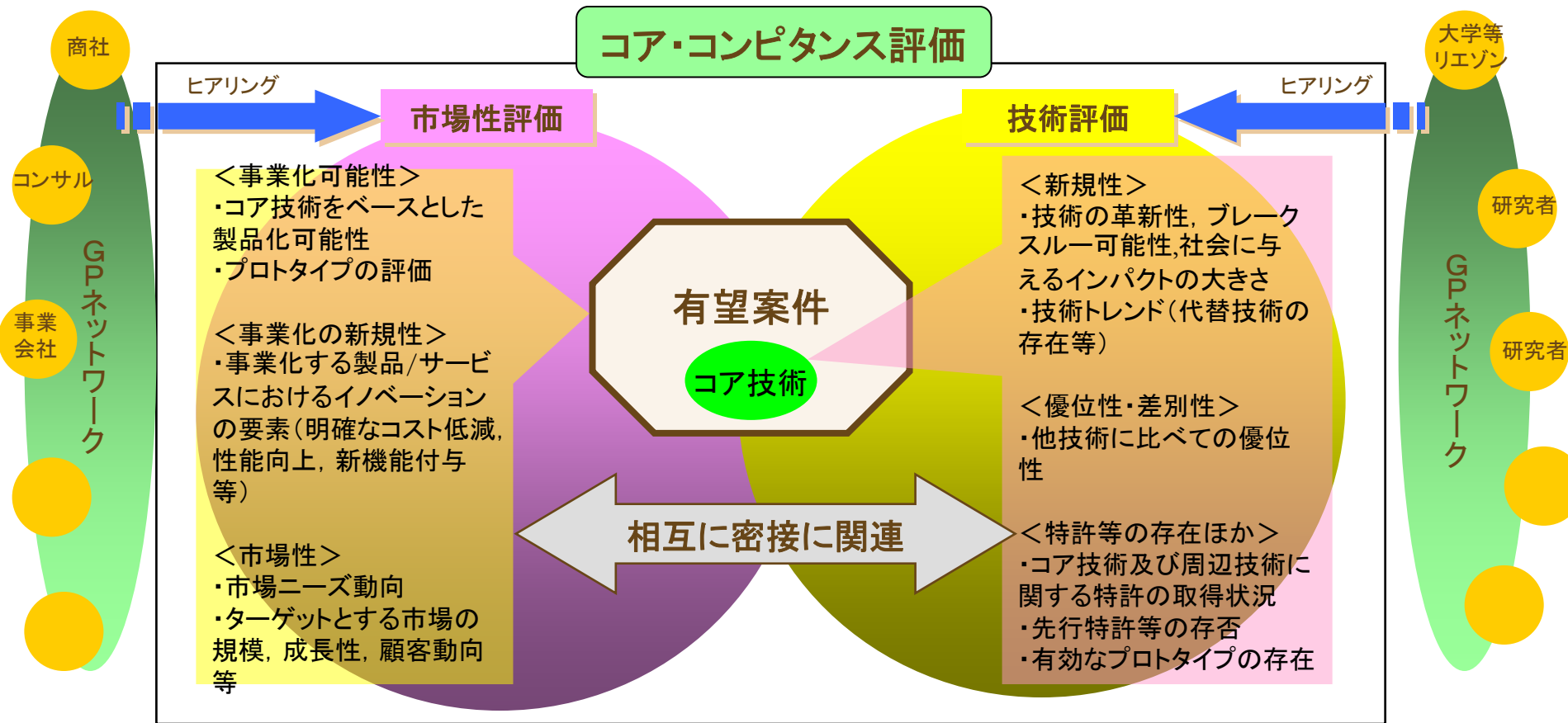
■ 情報ソース

- 出資者(LP)からの紹介
- 地域ネットワークの活用(各大学等の地域共同研究センターや各県地域プラットフォーム事業との連携など)
- 各県・各機関のビジネスプランコンテストへの参加
- 各種媒体(新聞・雑誌・TV等)での紹介etc...



*** 投資案件発掘は、GPの自助努力に加え、LP・地域の情報も重視。有望投資先を確保するため何よりも「母集団」を大きくすることが重要であり、LPからの情報提供や地域ネットワークも有効活用する。**

3. 投資プロセスⅡ～各種評価



* 技術と市場性の観点から, 当該ビジネスのコア・コンピタンス, ポテンシャルを評価→重要なのは, 技術・商品・BMを問わず, 「きらきら光っている」(=only one)こと。

4. 投資プロセスⅢ～投資判断

➤ 最終的に投資を判断するポイントは三つ。大きく分けると

①社会貢献度, ②ビジネスプラン, ③経営者(経営チーム)の資質

さらに詳しく見ると,

評価項目	キーワード
社会貢献度	経済的・社会性価値の創造, 生活における質の向上, 環境改善, 雇用創出など
ビジネスプラン	研究開発／事業化戦略, マーケティング, 資金調達, 収益計画など
技術力	他との比較優位性, 特許, 技術, ビジネスモデルなども含めた革新性など
市場性	市場ニーズの動向, 規模, 成長性, 競合状況など
マネジメント	経営チームのバックグラウンド, 信頼性, 実行力, 積極性, 取締役派遣など
バリュエーション	取得価格の妥当性, 投資収益性, 回収までの期間など
株式公開	IPOに向け明確なロードマップが描けるか(* 別なオプションも有り)

5. 投資プロセスⅣ～ハンズオン支援

- ビジネスプランのブラッシュアップ支援
- 資本政策策定・資金調達支援
- 役員等の派遣による経営参画
- 知的財産権の確立支援(オンリーワンとしての地位確保)
- 研究開発戦略の構築支援(研究者との役割分担の明確化)
- 地域資源のコーディネート(各種ソフト支援, インキュベータ等の物理的支援など)
- CEO, CFOおよび営業担当候補者等の紹介・斡旋
- アライアンス先の紹介(製品開発, 販路開拓等)
- IR等による企業価値の向上と株式公開までの指導



Ⅲ 投資の現状と今後の展望

1. 投資領域
2. ファンドによる投資例とキーテクノロジー
3. ファンドによるEXIT事例
4. 大学発ベンチャー成功の条件

1. 投資領域

■投資エリア:東北7県

■投資領域:ハイテク分野で将来有望なスタートアップ、アーリーステージの企業を中心

大学(国公立)
高専
独立行政法人
公設試験研究機関

技術シーズ、研究成果等

<例>

新素材

エレクトロニクス

ソフトウェア

ナノテク

環境

バイオ

先端医療・福祉

その他

◇ なお、大学等との関わりについては、大学発ベンチャーに限定せず、地元中小企業との共同研究、技術指導も含め、対象は幅広い。

TICC 2. ファンドによる投資事例とキーテクノロジー

(2006年1月31日現在、投資19社より抜粋)

- (株)ダイレクトコミュニケーションズ 青森県弘前市 2000年9月設立
画像処理・解析技術とネットワーク技術の活用による、病理組織などの高画質画像を顕微鏡からリアルタイムに取得するシステム (弘前大学との連携)
- (株)メムス・コア 仙台市太白区 2001年12月設立
MEMS (Micro Electro Mechanical Systems 、微小電気機械システム) : 電子、機械、光、材料などの多様な技術を融合した微細加工技術で製作され、広い分野でシステムの鍵を握る重要な部分に用いられる高付加価値デバイス (東北大学との連携)
- (株)フットニックス 仙台市青葉区 2002年7月設立
「フットニックス結晶」: サブミクロンの周期をもつ多次元屈折率周期構造体であり、次世代の光技術を担う新しい人工光学材料 (東北大学との連携)
- (株)加速器分析研究所 福島県白河市 1999年3月設立
「加速器質量分析法」: 炭素14の性質を活用して 高精度の年代測定や生体内薬物動態分析を行う技術 (学習院大学、他との連携)
- ディアナサン(株) 仙台市泉区 2000年10月設立
独自の理論による86面体、114面体ダイヤモンドは、従来のカットと比較して輝度が2倍以上あり、反射光色のコントロールが可能。レーザー透過光の医療面での応用を研究中 (新潟大学との連携)
- (株)プロデュース (2005年12月 JASDAQ上場) 新潟県長岡市 1992年6月設立
小型電子部品への外部電極塗布装置を開発。従来型製品と比較して、特にチップ小型化への対応、塗布の精度が格段に優れる。 (長岡技術科学大学との連携)
- (株)デジタルパウダー 仙台市青葉区 1999年3月設立
ミクロンサイズ領域の微小で均一な球(デジタルパウダー)の製造・販売を事業とする (東北大学との連携)
- アイトリックス(株) 山形県米沢市 2000年12月設立
ナノインプリント装置および超精密加工部品の研究・開発・製造・販売 (山形大学との連携)
- (株)ジエムシーヒルストン 山形県最上郡 1991年3月設立
シャフト型リニアモーター『シャフトモーター』の開発、製造、販売 (山形大学との連携)
- ファインアーク(株) 仙台市青葉区 2000年2月設立
次世代音楽圧縮伸張フォーマット対応の低消費電力型LSI等の開発・商品化 (東北大学との連携)

3. ファンドによるEXIT事例

A. (株)プロデュース (新潟県長岡市)

独自技術の電極塗布装置と検査装置の開発

2004年12月投資

⇒2005年12月14日 JASDAQ上場

B. (株)アイアールメディカル工房 (福島県郡山市)

低侵襲治療用医療用具の企画・研究・開発

2004年12月投資

⇒2005年12月(株)グッドマン(JASDAQ上場)に売却

4. ベンチャー企業成功の条件

1. ビジネスが成長分野であるか
2. 次世代、次々世代商品の開発シーズがあるか
3. 特許等の知的財産権を所有しているか
4. 社長および経営陣のマネジメント能力はあるか
5. 株式公開を目指せるか

地元密着したVC

☆ 東北イノベーションキャピタル株式会社（TICC）

■設立： 2003年10月

■資本金：5,000万円

■役 員： 代表取締役社長 熊谷 巧

取締役副社長 五十嵐 和之、 取締役 高橋 四郎、野口 正一、丹野 光明

監査役 西澤 昭夫

顧問 井口 泰孝

☆ 東北インキュベーション投資事業有限責任組合（TIF）

■発 足： 2004年3月25日組成

■ファンド総額： 31.8億円

■組 合 員:

(有限責任組合員)： (株)インテリジェント・コスモス研究機構(80)、
(株)七十七銀行(10)、(株)荘内銀行(10)、
(財)仙台市産業振興事業団(20)、(株)東邦銀行(10)
(社)東北経済連合会(5)、東北電力(株)(50)
日本政策投資銀行(100)、(財)みやぎ産業振興機構(20)
(株)山形銀行(5)、(財)山形県企業振興公社(5)

(無限責任組合員)： 東北イノベーションキャピタル(株)(3)